

策定にあたって

このたび、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画期間とする「じょうそう未来創生プラン（常総市総合計画）後期基本計画」を策定いたしました。計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました市民の皆様をはじめ、総合計画審議会委員ならびに関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

この計画は、前期基本計画期間における本市の変化、現在の社会動向を考慮し、さらに人口ビジョン、市民ニーズなどを多角的に分析した上で、将来都市像「みんなで作る

しあわせのまち じょうそう～あの人がいるから♡このまちがすき～」を実現し、未来にわたって活力あるまちづくりを進める道標として策定いたしました。

前期基本計画期間は、平成27年9月関東・東北豪雨からの復旧・復興に全力で取り組んだ5年間でありました。また、新型コロナウイルス感染症とも闘った期間でもありましたが、多くの困難を市民の皆様と乗り越えた今、新しい景色を見る準備が整いました。

そこで、後期基本計画では、基本構想に掲げている『じょうそう3「た」のまちづくり』（楽しい・為になる・頼りにされる）に沿った、3つのプロジェクトを掲げました。

一つ目は、道の駅を活用した農商工の連携です。復興のシンボルである道の駅常総がいよいよオープンします。新たな本市の玄関口となる圏央道・常総IC周辺にはアグリサイエンスバレーが着々と整備されています。ここを拠点に、農商工が連携し、賑わいと交流人口の拡大を生み出していきます。

二つ目は、地域の絆日本一です。大災害を経験した私たちは、人と人が助け合う大切さを災害からあらためて学びました。コミュニティが希薄化している現代ですが、今後も防災先進都市として地域コミュニティをどこよりも大切にし、それを防災や福祉につなげていきます。復興から防災によるまちづくりへの転換を、地域の絆を強くすることでさらに実現させていきます。

三つ目は、地域資源を活用したアウトドアシティの構築です。コロナ禍で日本人の生活様式は大きく変化しました。自然豊かな本市は、都心から近く、アクセスの良さで多くのアウトドア愛好者が訪れています。自然という地域資源を生かし、楽しくゆっくり過ごせるまちとしてさらに多くの方に訪れてもらいたいと思います。

さらに、AIまちづくりの取り組みも本格的に動き出します。これらは全て、シビックプライド（市民の誇り）醸成のためであり、市民の皆さまの生活を豊かにするための取り組みです。

「住んで良かった」「働いて良かった」「来て良かった」「応援して良かった」と思ってもらえるまちにしていこうため、この計画を市を挙げて実現させてまいります。

「さあ行こう、新しい景色へ、みんなで」



令和5年3月 常総市長 神達 岳志